

2024年度事業計画書

一般社団法人ケアと暮らしの編集社



ケアと
暮らしの
編集社

1. 事業方針

●昨年度ふりかえり(詳細は年次報告書にて)

4期目となった2023年度も多くの方に参画いただき、ケアするまちのデザインを行うことができたと感じている。だいかい文庫という固定の場が果たす役割は非常に大きい。約3年半の累計来館者が15000名、相談者1000名、個別支援160名程度となっている。また市民大学も開催回数が40回程度である。その輪をだいかい文庫やYATAI CAFÉのみならず、豊岡市全体の社会的処方・地域共生社会の輪を広げ、全国のケアとまちづくり人材のエンパワメントにもつながっている可能性がある。

昨年度は、ゆるいつながり研究室やだいかい大学が安定的に実施され、運営支援をするケアとまちづくり未来会議(以下、ケアまち会議)もオンラインコミュニティの運営を開始し、安定して実施できた。また、だいかい文庫の論文化等によるアウトプットの言語化、IOOワークショップによるアウトプットの洗い出し、ロジックモデルによるKPIの設定やデザインルールの設定など、デザインやアウトプットの見える化、組織体制の強化を行った。その結果、だいかい文庫がなにを生み出しているかがわかり、今後、ファンドレイジングや横展開に有用かと考える。一方で、NPO法人カタリバからの支援によるユースセンター事業、ホームページの改修、ケアとまちづくりデザイン研修事業、だいかい文庫の書籍化も未着手である。

●今年度の重点事業

今年度は、ケアまち会議を運営協力から弊社事業に位置付け直し、ケア人材とまちづくり人材の接点を探っていき、リサーチし、場づくりを行う人々の中間支援の機能を強化していく。ケアとまちづくりデザイン研修事業等を新規事業として行う。またユースセンターのスタッフを位置付け、運営を開始する。また昨年度できなかった事業として、ホームページの改修等も継続して取り組む。居場所の相談所を拡充し、法人向けのプログラムも開発する。なお、事業に関しては、ケアとまちづくり育成事業、場づくりに関する伴走型支援事業、法人運営管理、コンサルティング事業は、全国を対象とした中間支援事業である。そのほかの業務に関しては、固定の地域を対象としたリアルな場づくりである。

●今年度の体制

有給スタッフは、予算上、だいかい文庫居場所の相談員フルタイム1名、地域おこし協力隊枠でフルタイム1名、ユースセンター事業フルタイム1名、バックオフィス等で週3勤務2名の、フルタイム換算4.0名体制が可能となる。ただ事業年度開始当初は、地域おこし協力隊枠でフルタイム1名、バックオフィスおよびユースセンター等で週3勤務2名のフルタイム換算2名程度しかない状況であり、早急にフルタイム換算で2名の採用が急務である。

●予算・ファンドレイジング

また今年度は、ファンドレイズにも重点を置き、主に豊岡市内での拠点事業と、ケアとまちづくりの中間支援機能のインパクト評価を行い、ケアくらメイト(マンスリーサポーター)の獲得および法人寄付の獲得を目指す。法人寄付に関しては、弊社事業における産業保健・相談事業と抱き合わせでのサービスをリリースし、豊岡市内の事業者向けに寄付獲得を目指す。年間予算規模は1500万円程度を想定している。収入については、ユースセンター事業400万円、だいかい文庫一箱本棚オーナー収入300万円(1割増100名)、飲食販売収益50万円、セミナー収益100万円、寄付収入360万円(メイト3倍300名)、オンラインコミュニティ収入170万円(2倍150名)、助成金収入80万円、コンサルティング収入60万円を予定している。

2. 具体的事業計画

事業	事業内容	実施日時	実施場所	スタッフ数	受益対象者の範囲及び人数	事業費概算
拠点事業						
図書館型地域共生拠点運営事業	だいかい文庫、居場所の相談所、だいかい大学等の運営	年間300日程度	だいかい文庫	有給スタッフ2名	本に関心のある近隣住民全体/利用者約5000名	700万円程度(収益事業含む)
<拡充>孤立孤独相談事業	居場所の相談所運営事業	年間100日程度	だいかい文庫ほか、法人向けも検討	有給スタッフ2名	孤立孤独等の相談者/利用者約100名	100万円程度
<新規>ユースセンター事業	ユースセンター運営事業	年20回	豊岡劇場、だいかい文庫等	ボランティア5名+有給1名	参加者100名程度	350万円程度
認知症拠点事業	認知症の人と家族の一体的支援プログラム	年12回	だいかい文庫等	有給1名	参加者40名程度	20万円程度
全国事業						
コンサルティング事業	コンサルティング事業	適宜	適宜	代表理事	数社	交通費等の実費
<新規>場づくりに関する伴走型支援事業	ケアとまちづくりデザイン研修事業	年数回	オンライン+だいかい文庫	有給スタッフ1名	参加者100名程度	50万円程度
<拡充>ケアとまちづくり育成事業	ケアとまちづくりに関する中間支援・リサーチ事業	年間通じて	オンライン+年1回オフライン(京都)	有給スタッフ2名	オンラインコミュニティ100名ほか参加者300名	150万円程度
<拡充>法人運営管理	事務局機能、ファンドレイジング等	年間通じて	適宜	有給スタッフ1名	全体	300万円程度

詳細なKPIについては、別途資料を参照のこと

次年度以降の方針について(中期計画)

- ・再現性の検証として、次年度以降の地域共生拠点の2つ目の開館も念頭におきたい(都市部を想定)
- ・保健から医療、福祉まで、シームレスに提供する。地域保健と地域福祉を主に、社会教育等にも手を出している状況である。今後、地域医療も活動の主軸として置き、クリニック等の開設を視野に入れたい
- ・中間支援事業としては、PIECESのC for Cのような市民性をエンパワメントするような取り組みとしてケアとまちづくりデザイン研修を実施・強化し、法人賛助会員を獲得する。

→つながりと表現をテーマに地域における保健、医療、福祉を一体的に提供し、ウェルビーイングを向上させる法人であることと、その場で得られた知見を中間支援として市民性に基づいた専門性を地域に還元するプレイヤーを応援する中間支援組織であることの両輪を加速化させる。